

下も狐と成り古狐子狐救百足散々よ成り近き有り
斬られて死する有り手負て逃る有り洪水の跡あり
なく河原とあり云々鹿も消えぬあきふ踊りして
押寄城より着る北に向陣を敷て人馬の息を休めたり
今度初と遠ひ城より白雲もわらふ多勢も見へ怪
るもなかりなり軍は日卯刻とお定め勇ましくを
待居りさる程天音より能登守山取し属する
平陽城あり北にかた天戸のみぎりしやん勢りき
るを力を落し頼久公望ありて偏し我運命の
末ありとて敵押寄城は一軍いさぎよくして討死す

若城中に能登と一味の事ありは我首を取るし
又志有る人主従の好身深く思ふ何卒義光父
子首を取て後世に留置を弟ひるひと乞ひけし宣
ひは長松院跡河跡進み出こは口惜き市役式正族
の中は能登が極ある會欲不義の者順ふものも河
らに去るが落んと思ふ人々も此城に出登りと座
中を見出し今度の先きこそ能登志ありし維令鬼神
にもせよ目にさへ見えぬものなり遺恨を晴しやさんと
さてもけきよくそとへ城の中皆いさぎよく必死と
思ひ定め櫓かき何れ矢挾を置き只射取れを明